



Tiempo

Encinitas, CA

モダンデザインでリボーンした
絶景オーシャンビューハウス

A stylishly updated single-story overlooking a spectacular view. Modernized spaces are detailed with wall paper and tiles to add personal touches.

エンシニータスやカーディフ・バイザ・シーといった人気のビーチを見下ろす丘に、この素敵なりノベーションハウスは建つ。朝日を浴び、海からの風や鳥のさえずりを楽しみ、壮大なサンセットに包まれる。恵まれた立地条件にデザイナーたちが加えたアイデアをじっくり見てみよう。

Text / Masami Ogawa Photo / Jenny Siegwart, Scott Basile Special thanks to dasMOD
www.dasmod.com Interior Design: Ghost Tiger Design Interior Styling: Handsome @handsome.salt



南カリフォルニアのサーフトOWNの中でも、特に人気の高い街「エンシニータス」。さらにその南方に隣接するカーディフ・バイザ・シーも、「スワミーズ」などのサーフポイントを有し、多くのサーファーに愛される街だ。そんな「スワミーズ・ビーチ」を見下ろすヒルトップに建つのが4つのベッドルームを持つこの家。1985年に建てられた小さな平屋住宅を、サンディエゴ・エリアで都市開発を

続けるスヴェンとエリックが率いるdasMODのプランニングで見事にリノベートされ、今年完成した物件だ。小高い丘に向かい、ゆっくりと坂道を登る。左右にはたっぷりとセットバックされたグリーンを持つ家が並び、ほぼヒルトップに差し掛かった右手にこの家は建つ。37年前に建てられたオリジナルのルーファインを残しつつも、家と前面道路の間を広いコンクリート

敷のドライブウェイと、サキュレントが咲き並ぶロックガーデンが造られ、まるで新築のような佇まいを醸し出している。10段ほどのゆるいコンクリートステップを這んでエントランスにアプローチする。まず驚かされるのは玄関ドアがポケットドアとなっている事で、ドアを開くと開口部は大きく開け放たれる。さらにエントランスからフойヤーに入ると、その先に広大なリビング・



最も使用頻度が高いキッチンとダイニングを中心としたグラウンドフロアは、深いミントブルーとナチュラルウッド仕上げのキッチンカウンタートップが組み合わされ、とても居心地の良い空間に仕上がっている。家族やゲストが最も長い時間を一緒に過ごす場所だから、自然体で解らるようとした居心地の良さが、家の魅力を大きく左右すると異っていいだろう。積極的に取り入れられるウォールペーパーも、強い個性を演出している。



ダイニングエリアが、エントランスから連続するスクエアなデザインが生まれ出すミッドセンチュリー・モダンなデザイン、そして時代感を上手に表現しているオレンジのリビングファニチャーが、一気にタイムスリップしたかのようにあの素敵な時代にゲストを誘う。まさに絵に描いたような空間と心地良さがそこに広がるが、さらにハイライトはここからだ。リビングの西側に設けられた大きなガラスドアも、やはりポケットドアタイプで全てが壁に収納されるのだが、窓を開くと開口部は約6mと実にワイドで、リビングからパティオにかけて完璧なインサイド・アウトサイド・リビングとして展開される。そこから先には美しく刈り込まれた芝生と「スワミーズ・ビーチ」を中心とした南カリフォルニアの美しい海岸線が目飛び込んでくるのだ。この絶景こそがこのリノベーションハウスの持つ最も大きな特徴だが、さらに家の隅々まで見渡すと凝りに凝ったデザインを見て取る事ができる。

モダンデザインを主張するかのように、いくつかの幾何学パターンが採用されていて、リビングやバスルームにはヘキサゴン・パターンが採用されている。明り取りの窓や、パニティシェルフ、フロアタイルなどに大小のヘックスデザインがあしらわれ、それぞれに共通のイメージを持たせているのだ。さらに3つあるバスルームにはそれぞれ個性を持たせていて、たとえば1つの部屋にはヒースセラミックスのタイルが使われていて、その独特なカラーとテクスチャーでヒースの世界観を演出しているが、もちろんここにもヘックスパターンのモチーフが用いられるなど、家全体に共通するコンセプト的なデザインを施している。

チョイスされた照明やファニチャー類は全て新しいものながらミッドセンチュリーモダンという時代感を演出する大きな役割を担っている。特に家具や壁面のペイントはオレンジ





タイル、壁紙、ファニチャー… 様々なアイテムを駆使して、個性を演出

ジ&ブルーというミッドセンチュリーモダンの定番カラーコンビネーションで、その印象を強めているのも間違いのない選択といえるだろう。

さらにここ数年のカリフォルニア・アーキテクチャーのトレンドもしっかりと取り入れている。前述したグラフィカルなタイルのアレンジに加えて、個性的なウォールペーパーを適用しているのも、その現れだ。カリフォルニアだけでなく、アメリカでは室内壁の大半はペイント仕上げをするもの、というのが住宅やオフィス、コマーススペースで定番となっていたが、ここ数年、個性的なウォールペーパーが注目されているのも事実。日

本の壁紙とは異なり、かなり主張の強いグラフィックが描かれているものが大半だ。この家の場合、1つのバスルームにはティールブルー系のリーフをモチーフにしたグラフィック、またキッズルームにはトライアングルを組み合わせた細かいグラフィックデザインが採用されるなど、部屋によって仕様は様々。

静かで安全な恵まれた立地と、毎朝起きるのが楽しみになってしまうほどの絶景ビュー、さらに細部まで豊かさを追求した細かなデザインの数々は、この地で暮らす人の毎日を楽しくしてくれるに違いない。開発プランナーの情熱が作り上げた、素敵なりノベーションハウスの1つだ。

